

にちぎん

2020 NO.61

春



インタビュー 扉を開く

池井戸潤 作家

エンターテインメント小説は登場人物の数だけ人生がある

地域の底力

福岡県朝倉郡東峰村

厳しい苦難に立ち向かい 復興を目指す福岡県東峰村

対談 守・破・創

浜田宏 — イェール大学名誉教授・東京大学名誉教授・内閣官房参与

櫻井真 日本銀行政策委員会 審議委員

偏差値エリートはもういない 芸事に触れて「真善美」を学べ

エッセイ “おかね” を語る

群 ようこ 作家 お稽古のルール

今はお休みしているが、小唄と三味線を習っていたとき、そこでお金の使い方が新鮮だったというか、純邦楽とは縁がなく、普通の生活をしていたら、まったく知らなかったルールがあった。月謝の支払いはピアノのレッスンなどと同じだが、内輪の会を含め発表会となると、まず結婚式に招かれた時くらいにしか使わなかった祝儀袋を、何枚も用意しなくてはならなかった。

舞台上で私の三味線で唄ってくださる著名な師匠への謝礼、同じく私の唄の三味線を弾いてくださる兄弟子へお渡しする額を師匠にうかがい、祝儀袋に「御礼」、「御系代」、そして自分の名前を慣れない筆文字で書いた。楽屋に待機して三味線を調弦してくださる三味線屋さんにも同様の「御礼」をお渡しする。師匠への御礼の額は御本人には聞けないので、姉弟子にこっそり聞いた。金額的には一万円から五万円の間だった。

その他、会に参加してくださった師匠方へ、「蒔き物」を用意しなければならぬ。金額的にはひと箱千円程度の、お菓子だったりタオルだったりするのだが、箱ひとつひとつに外のしをかけて自分の名前を書く。それが毎回、三〇個ほどあった。紙袋に弟子が持ち寄っ



絵・江口修平

お稽古のルール

群 ようこ

た蒔き物を分配して、師匠方にお持ち帰りいただく。それなりにまとまった金額の、発表会の出演料をお支払いしたうえでである。

私は純邦楽系の習い事をしたのははじめてだったので、会のためにお金が飛んでいくなあと思っていた。日本舞踊を習っていた妹弟子に聞いたら、

「日舞は大変でした」

といった。もちろん師匠によっても違うのだろうけれども、日舞の舞台となると、音曲も必要で、お化粧やら衣裳やら揃えこしらも多いため、自分の出演する舞台に関わる人がとても多くなる。なので私が発表会でお支払いする一〇倍くらい、毎回、支払ったそうである。

へえ、そうなのかと、他の和物の習い事のしきたりも知ったのだが、師匠の年齢が若くなるにつれ、なるべくお弟子さんたちには負担をかけないようなシステムになっているそうだ。一般的な習い事にはないルールも含めて、和物の習い事なのだ。入門してきたばかりの二〇代の妹弟子が、発表会に出演すると師匠に返事をした後、無邪気な笑顔で、

「私のギャラはいくらなんですか」

と聞いて、一同の度肝を抜いていたのも、いい思い出である。

むれ・ようこ●作家。1954年東京生まれ。日本大学芸術学部文芸学科卒。広告代理店、編集プロダクションを経て、本の雑誌社に勤務。84年に退社し文筆専業に。著書に「鞆に本だけつめこんで」（新潮文庫）「還暦着物日記」（文藝春秋）「かもめ食堂」（幻冬舎文庫）「老いと収納」（角川文庫）角川春樹事務所「れんげ荘」シリーズなどがある。





2 エッセイ／“おかね”を語る
お稽古のルール 作家 群 ようこ

4 インタビュー／扉を開く
池井戸 潤 作家
エンターテインメント小説は登場人物の数だけ人生がある



9 地域の底力——福岡県朝倉郡東峰村
厳しい苦難に立ち向かい
復興を目指す福岡県東峰村



16 対談／守・破・創
浜田宏一 イェール大学名誉教授・東京大学名誉教授・内閣官房参与
櫻井 眞 日本銀行政策委員会 審議委員
偏差値エリートはもういない 芸事に触れて「真善美」を学べ

20 FOCUS → BOJ ③ 日本銀行北京事務所 海外事務所の仕事
刻々と変化する海外の実像に迫る

日本銀行のレポートから

24 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2020年1月—

26 「地域経済報告」(さくらレポート) —2020年1月—

32 トピックス
「FSBレポ統計の日本分集計結果」の公表を開始 ほか



35 AIR MAIL from Washington, D.C.
グローバルな街ワシントンD.C.

表紙のことは

日本銀行静岡支店は、昭和十八年(一九四三)六月に日本銀行の二三番目の支店として静岡市下石町(現在の葵区常磐町)に開設されました。

最初の店舗は、開設からわずか二年後の昭和二十年(一九四五)六月、第二次世界大戦の大空襲により、金庫館を残して焼失してしまいました。翌日から、焼失を免れた静岡銀行本店等を仮営業所として業務を再開しました。

表紙の二代目店舗は、初代店舗が焼失した年の十一月、呉服町にあった静岡銀行の店舗を買い入れ、移転したものです。移転直後、この建物の二、三階を進駐軍が連隊本部として使用することになりましたが、翌年には同軍が他県に移ったため、再び全館が使用できるようになりました。その後、建物内が手狭であったことなどから、金庫館や倉庫等を増築しました。昭和四十七年(一九七二)十月に三代目となる現在の店舗(葵区金座町)に移転するまでの二七年にわたり、二代目店舗は静岡のまちを見守り続けました。



表紙・画 北村公司



作家

池井戸潤

IKEIDO Jun

『半沢直樹』シリーズや『下町ロケット』など、エンターテインメント小説の第一人者である作家の池井戸潤さん。息をもつかせない展開や痛快な決めセリフで読者を魅了してやまない作品は、どのように生まれるのか。大学卒業後七年勤めた都市銀行での経験と、これまでの読書体験が作家としての「武器」になっているという。人気小説の創作にかける秘めた思いを語っていただいた。

エンターテインメント小説は 登場人物の数だけ人生がある

読者に楽しんでもらうために
とことん人間ドラマを描く

——池井戸さんは一九八八年に
大学を卒業後、都市銀行に就職
されました。そのころの銀行業
界は人気の就職先でしたね。

池井戸 当時、都市銀行は一三
行ありましたが、人気業種で
したから競争率は高かったと思
います。銀行を志望したのは、
為替や融資、国際業務などいろ
んなことをやっているうえに、
何となく華やかで、魅力的に
映ったからです。

——最初に作家になりたいと
思ったのは、本好きの少年時代
だったと伺いました。銀行に勤
めながらも小説を書きたいとい
う思いはお持ちだったんですか。
池井戸 その気持ちはずっと

持っていました。ですから、あ
まり銀行員らしくなかったかも
しれませんが（笑）。みんなうち
へ帰ると仕事や資格取得関係の
勉強をしているのに、私は小説
を書いていましたから。

——その都市銀行を退職された
九五年ごろから銀行業界は苦し
い時期に差し掛かっていました。
池井戸 そのころ、私自身、銀
行という組織と合わないと感じ
るようになっていました。株価
もどんどん下がっていく、そん
な時期でしたから、結果的には
辞めてよかったのかもしれない
ん。

——九八年に江戸川乱歩賞を受
賞して作家としてデビューされ、

近年では企業を舞台にした作品
を数多く発表されています。

池井戸 企業を舞台にした小説
は、書けそうで意外に書けない
んです。読み手の多くが企業で
働いているのに、書き手の作家
にはサラリーマン経験のある人
が驚くほど少ない。その点、私
は銀行で融資の担当をしていた
経験もあり、中小企業から上場
している大企業まで、一〇〇〇
社以上は見ているわけです。そ
れだけの数の企業の雰囲気や銀
行とのやり取りを知っているの
は、企業を舞台にした小説を書
くうえで、大きな武器になって
いると思います。

——『半沢直樹』シリーズなど
を読むと、銀行を含め、会社組
織というのはひどい所だと思っ
方もいらっしやるでしょうね。

池井戸 作家としてはそれが

なかなか難しいところでは
……。私の小説は基本的にはサ
スペンスの手法で書いていきま
す。何か謎があり、それを解決
していくというのを繰り返して
ながら物語を進め、最後には巨
悪が倒される。そういうミステ
リー的な展開を読者に味わって
もらうために、「盛っている」と
ころもある。いわば脚色するわ
けですね。

例えば銀行が舞台の小説で、
銀行員の方であればその盛って
いる部分を読めば、「脚色してあ
るな」というのがわかるはずで
す。しかし、銀行のことをよく
知らない読者は「こんなひどい
組織なのか」と思い込み、義憤
にかられる。実際、私が「盛っ
た」部分を、「銀行はとんでもな
い」と真に受けた声が届くこと
もあるんです。



いけいど・じゅん ● 1963年岐阜県生まれ。慶應義塾大学卒業。98年に『果つる底なき』（講談社文庫）で江戸川乱歩賞を受賞し作家デビュー。2010年『鉄の骨』（講談社文庫）で吉川英治文学新人賞、11年『下町ロケット』（小学館文庫）で直木賞を受賞。『ルーズヴェルト・ゲーム』（講談社文庫）、『民王』（角川文庫）、『陸王』（集英社文庫）など数多くの作品がドラマ化され、『空飛ぶタイヤ』（講談社文庫）と『七つの会議』（集英社文庫）は映画化された。近刊に『半沢直樹3 ロスジェネの逆襲』『半沢直樹4 銀翼のイカロス』（講談社文庫）。同一作品はドラマ「半沢直樹」の続編として、20年4月からTBS日曜劇場で放映される。

それをエンターテインメントとして読んでもらえるように、私なりに工夫しています。例えば、雑誌連載から単行本にした『半沢直樹』シリーズで、銀行の経営状態を検査する金融庁の検査官が登場します。この検査官は、雑誌のときには典型的な切れ者のエリートキャラクターだったのですが、読者が現実の検査官もそういう人物に思うかもしれない。そのギャップを埋めるために、単行本にする際には、この検査官を全く別の、

エリートらしくない個性的なキャラクターに変えたんです。これはエンターテインメントだから、真に受けたりしないので、ださい、という意味を込めて。ところがその作品が世に出るや、「ああいう検査官は信頼が置けず、けしからん」と金融庁にクレームが来たとか。どんなに脚色しても真に受けてしまう人はいるんだと思います。——二〇一九年はラグビーワールドカップが日本で開催され、盛り上がりました。池井戸さん

の作品でも、自動車会社のラグビーチームが廃部の危機から立ち上がる作品を書いておられます。社会派ともいえる作品に、エンターテインメント的な要素を加えていくのは難しいのではないですか。

池井戸 そもそも私自身は社会派的なものをテーマにして作品を書くことはありません。どこまでいってもエンターテインメント小説の作家だと思っているんです。こういうことをやったら面白いんじゃないかということとをまず考えて、それから物語を紡いでいきます。

ラグビーを題材にした小説『フーサイド・ゲーム』の場合、日本ラグビーフットボール協会副会長の清宮克幸さんと初めてお会いしたときに、清宮さんが

小説の致命傷になる 登場人物の「破綻」

——エンターテインメント小説は人間を書くもの、ということでしょうか。

池井戸 まず人ありきです。私

社会人ラグビーチームの話を熱く語っておられたんです。それがすごく面白くて、いつか小説にしよう、自分の中でずっと温めていました。

私自身は、企業がどうするかということより、企業の中の人間ドラマを描きたい。読者の皆さんは勉強のために小説を読むのではなく、通勤電車の中で暇つぶしに読むわけです。ですから、社会派の小説、ノンフィクション的な切り口の小説というのは、エンターテインメントとして広く読まれるには限界がある。もっとシンプルに、喜怒哀楽という人間の基本的な感情にまで訴えるように書かないと、読者に受け入れてもらえないのではないかと思っています。

の場合、最初に主人公の簡単なプロフィールを設定します。例えば大阪の支店にいる、うるさい支店長が上司にいて大変な目に

あっているが、それにめげずに

仕事をする気骨ある課長……などと設定する。ただし、その段階では背格好とか、性格は想定しません。最初はいわば「透明人間」みたいな存在なんです。そこから事件とか、登場人物同士のやりとりなどを通じて、主人公のキャラクターが徐々に肉づけされ、人間の姿になっていく。読者も読み進めるうちに、最初は名前だけだった人物に「この人はこういう人なんだな」と想像を膨らませることになります。

——池井戸さんの小説では、反骨精神があつて、組織と戦う人物が多く登場します。

池井戸 エンターテインメント小説には対立構造が必要なんです。だから、支店長や上司などの敵役をつくるんです。それも強い権力を持っているなど敵役がパワフルであればあるほど対立構造が鮮明になり効果的です。一方でそれと戦うのは弱い人間です。最初は弱い人間だけど、何かのきっかけで気持ちが変わり、相手に立ち向かっ

ていくといった具合です。

私はいろんなパターンでストーリーを書きます。それができるのは銀行員時代の経験もさることながら、読書体験の影響が大きいです。その体験から得られたストーリーのデータベースみたいなものが頭の中にあるんです。銀行員としての勤務経験は確かに貴重ですが、そうした経験に頼って書いてもすぐにネタ切れになります。それよりはストーリーのパターンをどれだけ頭に蓄積しているか、そこからうまくその小説にあったストーリーを引き出せるかが重要で、その土台のうえにラグビーや銀行の話に乗せて書くわけです。

——池井戸さんの作品には銀行と企業のやり取りなどリアルな場面も出てきますが、事前に綿密な取材をされているのでしょうか。

池井戸 事前の取材はほとんどしません。書こうとするストーリーが根本的に間違っていないかということを確認する程度です。

例えば『下町ロケット』とい

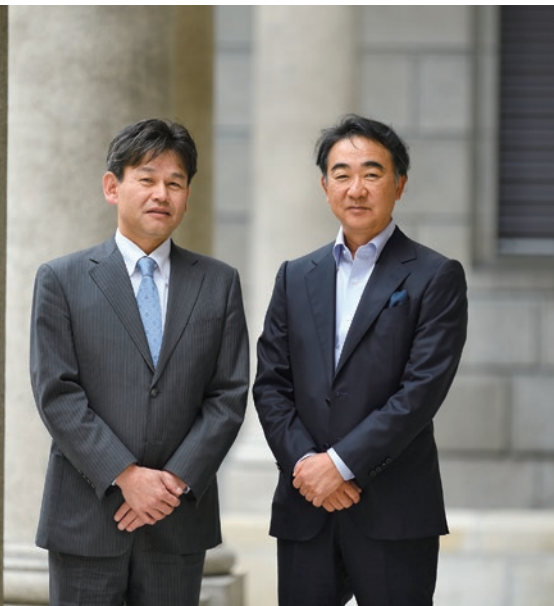
う作品を作る際には、大田区の中小企業が力を合わせたら大型ロケットを開発できる、という仮説のうえにストーリーを組み立てました。ただその仮説自体の真偽は、話の真実味に大きく影響しますので、絶対に事前確認しておく必要があります。そこで、執筆前に大田区のロケット関連企業の方に聞いたところ、「その仮説には無理がある」とのこと。ただ、「大田区の小さな会社がエンジンの特許を持ち、大企業にその特許技術を提供するという話であれば現実的か？」と聞くと、「それなら、ありえる」と。なので、取材で聞き出した話をベースにしたストーリーに変えたんです。

私自身、事前取材が綿密なほどいい小説が書ける、とは思っていません。最初にピンポイントで大事なことだけ押さえておき、書き進める間に確認すべき部分が出てくれば後で調べればいい。私はそうしています。

小説にとって、事実に関する間違いは大した傷にはならない

のですが、作家都合による登場人物の破綻は致命傷になります。

小説というのは、いろんな登場人物が、それぞれ人間らしく、普通の人と同じように動き、考えていなければならない。私の作品はどれも登場人物が多いのですが、三〇人登場したらその数だけ人生がある。私は、それを小説の始まりから終わりまでの期間で「輪切り」にして書いている。端役の登場人物も、その人なりの人生を背負って小説に現れるわけです。そして、読者は、そのキャラクターに感情移入して楽しむ。ところが、作家がこう書きたいというストーリーをなざるために、登場人物の言動が捻じ曲げられると「こんな人いるわけないじゃん」と読者は本を閉じてしまふのです。小説は人間ドラマですから、そうした登場人物の破綻は、事実の間違いなどとは異なり、最もやっつけてはいけないことだと思っています。それぞれの登場人物に敬意を払いながら書いていくことが本心に大事です。



「知りたい」読者が強める小説の嗜好性

——小説を書く際、池井戸さん
 なのりの流儀のようなものはある
 のでしょうか。

池井戸 小説を商品として売ら
 なければいけませんから、お
 のずと求められる基準がある
 わけですよ。手あかのついて
 いない「新しい」ものであるこ
 と、自分にしか書けないもので
 あること、そしてある程度のポ
 リューム感——この三つを自分
 に課して小説を書いています。
 ——読者に伝えていきたいメツ

セージはお持ちでしょうか。

池井戸 私自身、小説にあまり
 メッセージ性は持たせません
 が、あえて言えば、「エンターテ
 インメント小説は面白い」とい
 うことが伝わればうれしいです
 ね。一日を終えて疲れた人たちが、
 夜、テレビを見るのではなく小説
 を読もうと思ってもらいたいし、
 小説には奥深い面白さがあると
 いうことを知ってもらいたい。
 私の使命は、そういうものを書
 くことだと思ってるんです。

私のことを社会派の作家と誤
 解していると思われる方から、
 手紙で「理不尽なことがあった、
 ぜひそれを糾弾するような小説
 を書いてほしい」と依頼をいた
 だくことがあります。私にと
 って一番大事なのは、世の中
 をよい方向にもっていくといっ
 たことではなく、エンターテ
 インメント小説の面白さを広く
 伝えることなんです。

——インターネットやSNSが

さらに浸透していくと、小説の
 あり方も変わるでしょうか。

池井戸 すでに小説は、嗜好品
 の域にあると思っています。夜、
 お酒を飲みながらゆっくりする
 とか、そんな時間の嗜好品に近
 い。そもそも、小説というのは
 ある程度時間がないと読めない
 し、単行本だとそれなりに値も
 張りますからね。

——世の中では小説離れが進ん
 でいるとも言われます。

池井戸 小説を作る側、読む側
 双方に要因があるような気がし
 ています。

まず、最近の読者は変わりつ
 つあるように思えます。私たち
 の世代は、小説とはただ楽しむ
 ためだけのものでしたが、この
 頃は小説から何かを「知りたい」、
 小説を何かに「役立てたい」とい
 う読者が、とくに若い世代に増え
 ているような気がするんです。

こうしたことは、サイン会
 で、本に付箋ふせんを貼ってくる読者
 の方が結構いらつしやることに
 も表れています。どういう箇所
 に貼っているのか尋ねると、一

番多い答えが「自分の仕事に役

立つところ」だと。つまり私の
 小説を読むのは、楽しみつつも
 一方で役に立つ情報を得たいか
 らということのようです。こう
 いう「お勉強」の読書が間違っ
 ているとは一概に言えませんが、
 この傾向が顕著になればな
 るほど、自分の仕事や社会生活
 とは無関係な本とは次第に疎遠
 になっていくのではないでしょ
 うか。

一方、小説を作る側が、こうし
 た読書傾向を意識して書いている
 とは思えません。もちろん、意識
 したところで、それに合わせて
 小説を変えることは難しいとい
 う事情もあります。小説とはそ
 ういうものですから。結果的に
 作家が書きたいものと読者が読
 みたいものがどんどん乖離かいりしつ
 つあるのではないのでしょうか。
 小説離れの背景には、こうした
 構造的な問題があるような気
 がします。

——今後も池井戸さんの作品を
 楽しみにしています。本日は貴
 重なお話をありがとうございました。

地域の底力——福岡県朝倉郡東峰村

厳しい苦難に立ち向かい 復興を目指す福岡県東峰村

「平成二十九年七月九州北部豪雨」は、
福岡県東峰村に甚大な被害をもたらした。
それから二年半の歳月が過ぎた今、
逆境をバネに前進をはかろうとする、
人々の熱い思いが村にはあふれていた。

東峰村東部に位置する竹地区の、標高差約160mの谷間に広がる約400枚の石積みの棚田。毎年6月には「竹棚田の火祭り」が行われ、一帯をトーチが照らす幻想的な景色が見られる。農林水産省による「日本の棚田百選」に認定された。

取材・文 山内史子
写真 野瀬勝一

人口二〇〇〇〇人の村の 経験を広く伝えて 未来に生かしたい

福岡県南東部、大分県日田市に隣接する人口約二〇〇〇〇人の朝倉郡東峰村は、二〇〇五年に旧小石原村と旧宝珠山村が合併して生まれた。小石原地区は江戸時代から受け継がれてきた陶器の小石原焼、宝珠山地区は「日本の棚田百選」にも選ばれた竹地区の棚田をはじめとする美しい風景で知られ、「日本で最も美しい村連合」にも加盟している。

一五〇〇年もの歴史がある岩屋神社、樹齢数百年の杉の巨木群、



特産品のユズ、シイタケ、米など、東峰村には数多くの宝があると語るのは、二〇一三年から村長を務める澁谷博昭氏だ。

「長年村外で勤務していましたが、幾度も故郷の景色の夢を見て思いをはせていました。いいところがたくさんあるのに、生かされていない。何とか東峰村を活発にしたいと思いい村長に名乗りを上げたいです」

澁谷氏のもとで少しずつ活性化



東峰村や隣接する朝倉市、日田市に甚大な被害をもたらした九州北部豪雨のさなか、福岡市内から撮影された巨大な積乱雲。その周囲に広がる青空を見れば、豪雨がいかに局地的に降ったのかがわかる。(写真提供：東峰村役場)

が図られるなか、二〇一七年七月五日に村を襲ったのが「平成二十九年七月九州北部豪雨」だった。九時間で七四〇ミリを超える記録的短時間豪雨で生じた土石流により三名が命を奪われ、家屋、農地、河川、道路など村全体が甚大な被害を受けた。

「台風の場合は進路や時間が大体わかるので前もって避難準備が進められますが、今回のように、過去に例を見ないほどの急激な線



JR 日田彦山線の不通区間の駅の一つで、東峰村にある筑前岩屋駅。敷地内にあり、環境省による「平成の名水百選」に選ばれている「岩屋湧水」(右)は災害の影響で一時間閉鎖されていたが、2018年7月に利用が再開され、多くの人が訪れている。



村長の澁谷博昭氏は、「災害後不通になっているJR日田彦山線の開通に向け力を尽くしたい」と話す。手にしているのは、被災後に再建された大行司駅のあたらしい看板。駅名にちなみ、大相撲立行司の第四一代式守伊之助氏に書を依頼した。

状降水帯の発達による豪雨では、そうした事前準備の余裕がなく、まさに想像をはるかに超えた状況でした」

災害から二年以上が過ぎた現在も河川工事などの復旧作業が村内各所で行われているが、それと併せて澁谷氏が力を注いでいるのは、災害の検証とそこから学んだ経験を未来に生かしていくことだと言う。

九州大学の協力を得ながら、各地区で防災マップや、時間ごと取るべき避難行動をまとめた



村役場近くにある「東峰村災害伝承館」では、被災時やその後の様子を伝える映像が見られるほか、全国各地から寄せられた励ましの寄せ書きなどが展示されている。



計画書（タイムライン）を作成し、連絡体制を整えた上で防災訓練を徹底。高齢者の占める割合が四二・九%と福岡県内ではもっとも高いことを踏まえ、避難所への移動が難しい場合に地区内で安全を確保できる場所も指定された。

東峰村の事例をほかの地域でも参考にしてほしい、人口二〇〇〇人の村だからこそモデル地区になり得るとの思いから、内閣府により



547年に落ちた流れ星を御神体とする岩屋神社（上右・左）。1698年に福岡藩第4代藩主黒田綱政が建立した本殿は、国の重要文化財指定。毎年4月には神輿が村を巡る「岩屋まつり」が行われる。岩屋神社内は見所が多く、「針の耳と梵字岩」（下左）には、後行者小角が彫ったと伝えられる梵字が残る。「馬の首根岩と洞門」の洞門（下右）は、江戸時代末期の山伏の手によりつくられたという。

る防災科学研究のワークショップに参加するなどして、澁谷氏は広く発信に努める。災害の記憶を風化させないために、当時の様子を伝える「東峰村災害伝承館」も設けられた。

「被害は大きかったものの、これを機にあらためて前を向いていこうと話しているんです。東峰村には祭りが数多く受け継がれていることもあり、人のつながり、すなわち地域力が残っています。なによりも、ありがたいことです」

人々の心に元気を与えた 人間国宝認定の報せ

人のつながりは、各方面でそれぞれに前向きな動きを生んでい

る。そのひとつが、江戸時代から四〇〇年にわたり続いてきた小石原焼だ。黒田藩の庇護を受けた後、水瓶や壺など暮らしを彩る民陶がつくられ、人々に親しまれてきた。かつては一〇軒ほどの窯元が、昭和三十年代の民陶ブームによりあらたな窯が生まれ、現在は約五〇軒



福岡県の陶芸家として初めて人間国宝に認定された福島善三氏。4月14日～20日はそごう横浜店、5月19日～25日はそごう千葉店で個展が開催される予定。



にまで増えている。そんな背景を語るには、「ちがいわ窯」一六代目の陶芸家・福島善三氏だ。

豪雨から二週間後、福島氏は重要無形文化財「小石原焼」保持者、すなわち人間国宝の認定を受ける。周辺二二軒の窯元が被害を受けた中であつては、光差す朗報だった。小石原焼は一般的に日常で使うための雑器、民芸品としてとらえられていただけに、作品として評価される人間国宝認定に福島氏は、喜びと同時に驚きをもったという。

窯業地としてあらためて注目さ



飛び鉦や刷毛目などの独自の手法で装飾を施す小石原焼の特徴や、歴史をたどる資料が展示された「小石原焼伝統産業会館」。登り窯の見学や作陶体験もできる。

福島氏の窯元、ちがいわ窯。ギャラリーでは、青白色の釉薬の色合いに心地よさを覚える作品を間近に見ることができる(要予約)。



れたことが刺激になり、若い世代があらたなブランドを立ち上げるなど周囲にも変化が訪れる。二〇一八年には福島氏を中心とした作家一〇人による「小石原現代陶芸展」が復興を祈念して開催された。「作品を持つオーラは直接見ないとわかりませんし、質感や触感など、器は五感を通じて選ぶもの。東峰村に来てくださいと言うばかりではなく、小石原焼の良さを感じていただくためにわれわれも積極的に出ていかななくてはいけません。人口約二〇〇〇人の村に、窯

元が五〇軒。人口に対して窯元の割合が一番高い村として東峰村はもっと宣伝してもいいのではと、村長の澁谷氏に話しています」
自分にとっての村おこしは、全国に小石原焼を広めることだとも福島氏は話す。

「自分らしい表現を追求した結果、私がつもつとも大切にしているのは、小石原でとれる原料を使って小石原で焼くこと。旧小石原村が合併後に東峰村になり、小石原焼と産地名が一致しないお客さまもまだ少なくないのですが、作品を見ていただき、東峰村の小石原焼であることをより多くの方に知ってほしい。そして、小石原焼を通じて、東峰村を元気にしていければうれいすね」

復興イベントを介し 広まりつつある 特産品の数々

平成二十九年七月九州北部豪雨では、観光施設も大きな被害を受けた。そう話すのは、かつてにぎわいを見せた宝珠山炭坑幹部職員
の社交場を復元した文化交流施設



「山村文化交流の郷いぶき館」の建物はもともと、炭坑王として知られる伊藤伝右衛門の本邸の一部を福岡県飯塚市から移築したもの。館内には村の特産品に加え、宝珠山炭坑の歴史なども展示されている。

「山村文化交流の郷いぶき館」などの施設管理運営を担う「宝珠山ふるさと村」専務取締役の大坪勝二氏だ。東峰村の隣に位置する朝倉市出身の大坪氏は旅行業に長く携わり、福岡・大阪や海外での勤務を経て現職に至る。

「前職の時、ウオーキングツアーなどで、東峰村には頻繁に来ていたんです。美しい景色がとても印象に残っており、そういう環境のなかで仕事をしたいとの思いがここで働くことになりました」

観光施設の管理運営に加えて進めてきたのが、その施設のPRと特産品を使ったあらたな商品開発だ。

「特産品の六次産業化(注)はそ

れまでも企業や個人で行われていましたが、連携がなく、それぞれで取り組んでいたんです。ただそれでは力が分散されてしまします。東峰村の存在を認知してもらうためには、個々の取り組みを連携させ、まとめることが大事で、それを特産品の売り上げを伸ばすことにつなげたいと考えました」

旧小石原村、旧宝珠山村の名には馴染みがあつても、合併後の東峰村は、県内でもその名を聞いてピンと来る人が当初は少なかったそう。

夏は河川プールになる棚田親水公園、「平成の名水百選」に選ばれた岩屋湧水、廃校となった小学校



宝珠山川の水を利用した河川プール「棚田親水公園」は2018年7月に再開。以前のように多くの人出でにぎわった。

(注) 六次産業化/農林水産物を収穫・漁獲(第一次産業)するだけでなく、加工(第二次産業)し、流通・販売(第三次産業)までを総合的に手がけ、農山漁村の豊かな地域資源を活用した、あらたな付加価値を生み出す取り組み(1×2×3=6)。

「身近にあるものの魅力は、なかなか気づきにくい。東峰村にはまだまだ宝が眠っているはず」と話す、宝珠山ふるさと村専務取締役の大坪勝二氏。宝珠山ふるさと村が開発した商品の一部。左から「柚子と米酢のドレッシング」「柚子ジンジャー」「村の柚子ポン酢」。



を利用した宿泊施設、キャンプ場などを九州北部各地で案内し、手応えを感じていた矢先に村は濁流に飲み込まれた。

再建を断念した施設もあったほどの被害のなか、商品の加工場だけは影響を受けなかったため、一週間後には出荷を再開。その後の復興イベントへの出店が、前進する力となった。

「毎週のように販売に向き、それをきっかけに新しい取引先が増えました。売り上げが増え、村や商品の認知度も上がってきました。まずは福岡県内で地盤を固めてから、さらに県外への出荷へつなげていきたいと思っています」

棚田親水公園、岩屋湧水、キャンプ場などの施設は再スタートを

きり、現在は棚田の景色を望める宿泊施設の計画が進められていると、大坪氏は顔を輝かせた。

特産品のシイタケが東峰村のファンを増やす力に

宝珠山ふるさと村とも連動し、シイタケで東峰村の名を広めようと数々のチャレンジを重ねているのが、「農事組合法人宝珠山きのこ生産組合」。その要は曾祖父の代から続くシイタケ栽培を継ぎ、農学博士の肩書を持つ理事の川村倫子氏だ。

組合のシイタケ栽培は、粉砕した樹木などからつくられる完全無農薬の菌床ブロックに菌を植え付けることから始め、温度や湿度の管理を徹底したハウスのなかで三〜四カ月かけ、シイタケはゆつくりと肉厚に育っていく。現在は東京の百貨店との取引もあるが、原木シイタケ栽培にこだわる消費者が少なくなく、苦勞を重ねてきたという。

「菌床に何が入っているかわからない、という漠然とした不安か

らか、原木栽培信仰が強いんです。それを打破するため、農学部で学んだ経験が幸いしたと思います。自信を持って菌床栽培の安全性と魅力を科学的に説明することで、だんだんと信頼してくださる方が増えてきました」

その信頼を、東峰村の存在が陰ながら支えたのが興味深い。「市や町ではなく、村であることがブランドになるんです。自然が豊かで素朴なイメージや、安心感がある。村で良かったと思いたね」

イメージだけではなく、食の安全や環境保全に取り組み農場に与えられるJGAPジエイギャップの認証を得、輸入菌床ブロックとの差別化のために、福岡県産の認証シールを貼るなど、確固たるブランド化にも努める。調味料や菓子など、シイタケを使った商品も開発された。

川村氏の活動はそれにとどまらない。地元を元気にする目的で村の女性たちが世代や職

業を超えて集まった、「東峰ムラガールズ」のメンバーでもある。福岡市内にアンテナショップを開店したのに加え、バスツアーなどイベントも企画してきた。

「東峰村の景色やおいしいものを、多くの人を知ってほしい。さらには、私たちに代わって村の魅力をPRしてくださる東峰村のファンを増やしていくのが大切だ」と思い、取り組んできました」

豪雨の際には菌床ブロックのハウスなどが大きな被害を受け、一時期は出荷も危ぶまれていたが、一カ月後にオンラインショップを復活。商品はオリジナルキャラクターの手ぬぐいしかない状況だっ



宝珠山きのこ生産組合理事の川村倫子氏。全国各地で行われるイベントへの参加を重ねながら東峰村の認知度を上げて地盤を固め、将来的には地元でそうしたイベントを開催したいと意気込む。

菌床ブロックで栽培されたシイタケは地元の女性たちにより丁寧に選別、袋詰めされて出荷される。左はサイズの小さなシイタケを乾燥させた商品。



「ものの、反響は予想以上に大きかったという。」

「東峰村と聞き、いても立ってもいられなくて注文したなど、コメント欄に書かれたメッセージを読みながら涙があふれました。たくさんの方たちが東峰村に思いを寄せてくれているとわかり、本当にありがたかったですね。この思いに何とんでも応え、恩返しをしたいと思いました」

施設があらたに整った今は、エネルギーギッシュに活動を再開。しいたけカレー、柚子胡椒ゆずこしょうをアクセントにきかせたアヒージョなど、あ

らたな商品も生まれている。

「逆境ではあったものの、ニュースを通して東峰村の名が全国に知られるようになりました。村内でも水害への受け止め方はそれぞれだと思いますが、私自身は村の知名度が上がったことを前向きに捉え、これからも村の魅力を発信していきたいと考えています」

山間を彩る美しい棚田を未来へと継ぐために

集中豪雨でもっとも大きな被害を受けた東峰村の宝が、村内にある棚田だった。田畑の土が流されただけではなく農業機械や水路なども土石流の被害を受け、離農を考える人もいたなか、若手の有志が集まり、棚田復活のために立ち上がったのが「東峰村棚田まもり隊」だ。

代表を務める和田将幸氏は、その発足をこう振り返る。

「災害前の自分たちは、村のこつとや米作りを親の世代に任せがちで、この東峰村のことを真剣に考えていなかったような気がします。農業に携わる人の高齢化をは

じめ数多くの課題があることはわかってはいたはずですが、自分たちのこととして向き合っていかなかった。しかし、災害をきっかけに、自分たちの世代が動かなければ、東峰村の農業は立ち行かなくなるという強い危機感が募ったんです。今回の災害は、時計の針を一〇年早めたと思っています」

災害から四カ月ほどたった十一月、活動の突破口として棚田親水公園で開催したのが、「ちいさな収穫祭」というイベントだ。地元食材を使った鍋料理や新米のおにぎり、ふるまわれ、野菜の販売、器をつくるろくろ体験なども行われたと話すのは「東峰村棚田まもり隊」事務局の梶原寛暢ひろのぶ氏だ。

「災害の際にはボランティアをはじめ本当に多くの人たちに助けていただいたので、このイベントで感謝を伝えたいという思いがありました。さらには東峰村には実りがある、おいしいものがある、元気も失っていないという発信がしたかったんです。イベントが

終わったとき、皆が笑顔だったのが今でも忘れられません。あれほどの災害の後でしたが、あの日の僕たちは笑っていました」

一時的なイベントで終わらせることなく、農業を観光にする形で訪れる人たちと継続しながら絆を深めて交流人口を増やしていきたいと、二〇一八年からは田植え体験を実施。災害前からおいしさに定評があった棚田米は、親類縁者に配ってほぼ終わっていた状況を変え、積極的なPRや販売も行われるようになった、と梶原氏は語る。

「あの災害がなければ会話をし



「東峰村棚田まもり隊」代表の和田将幸氏（右）と、和田氏を支える事務局の梶原寛暢氏。棚田米の売り上げの一部は現在、村の復興支援に使われているという。

JR 日田彦山線筑前岩屋駅～大行司駅間には写真の「宝珠山橋梁」を含む3つのめがね橋が架かる。年末のライトアップや四季折々の景色が彩る姿を求め、災害前は多くの鉄道ファンや観光客が訪れていた。



村の北部には樹齢二〇〇〜六〇〇年と伝えられる杉の巨木群が約五ヘクタールにわたって広がる。写真は巨木群のなかでも威風堂々とした大きさを誇り、林野庁による「森の巨人たち百選」に選定されている「大王杉」。このあたりはかつて修験の場だったといわれる。

ないで終わったかもしれない人たちを含め、災害をきっかけに広く意見を聞くようになりました。正直なところ、くじけそうになることもありました。亡くなった方がいるのに何もしなかったらそれこそ申し訳が立ちません。これに負けてはいけなないと、いつも仲間と話しています」

和田氏が続ける。

「災害を機に、同年代はもちろん、年配の人たちや村長とも腹を割って話すことが本当に増えました。いろいろな取り組みが一つずつ実を結び、自分たちの行動が状況を好転させるきっかけとなればという思いは強いですね」

現在は「東峰村遊休農地活用プ

ロジエクト」として休耕田にさつま芋を植え、宮崎県の焼酎蔵で芋焼酎を仕込む試みが進められている。さつま芋に加えて米や水も村から運び、この春に完成予定だと梶原氏が笑顔を見せた。

「原材料が東峰村産の焼酎なら、村でつくった器で飲めたらいいのではないかと、小石原焼の焼酎の器との限定セットの販売も決まっています。以前は、イベントなどで、小石原、宝珠山と、合併前の地区ごとにわかれて行われることが多かったのですが、このプロジェクトはオール東峰村！村全体がまとまったら、いったいどのぐらいの力が出るのだろうか」と期待しています」

うれしそうに語る梶原氏の言葉を、和田氏が継いだ。

「焼酎ができたなら、田植えや収穫に来てくださった村外の方々と一緒に飲みたいですね」

復旧ではなく復興を目指し 東峰村のチャレンジは続く

和田氏、梶原氏のひたむきな姿を目の当たりにして思い出したのは、独自の表現を生み出すために幾度となく試行錯誤を重ねたという陶芸家の福島氏の話だ。

「技をそのまま受け継ぐのが伝承だとすれば、伝統とは、今までのものに自分がプラスアルファでなにかを足しながら、時代とともに変わり行くものなんです。器を作るには、粘土づくりから焼き上がるまで何カ月もかかりますが、途中で全部廃棄してやり直すことも珍しくありません。新しいものをつくる、なにかに挑むということとはそういう苦労があります。でも、その積み重ねが未来への糧、あたらしい伝統を生むことにつながるんです」

この先にどんな困難があったと

しても、東峰村で今行われているさまざまなチャレンジは、福島氏の言うあたらしい伝統を各分野で生み出すことにつながるのではないだろうか。

村を歩いてお会いした方々の多くが、目指すのはもとの状態に戻す復旧ではなく、将来に向けたあらたな村の形を作る復興だと話していたのも印象深かった。村長の澁谷氏の話もまた、胸に深く刻まれている。

「若い世代には、東峰村を受け継ぐあなたたちがこれからの村をつくっていくのだと、言っています。景観や特産品を生かしていけば、必ずできると」



村の人々の毎日の移動を支えていたJR日田彦山線は、東峰村内の3つの駅を含む添田駅～夜明駅が復旧していない。

対談

守 破 創

グローバル化やデジタル化が急速に進展し、先行きが見通しにくくなっているこの時代に、社会を導くリーダーをどう育成するか。記憶重視の日本の偏差値教育はこのままでいいのか。少年時代から音楽に触れ、作曲家でもある浜田宏一・イエール大学名誉教授と、日本舞踊の稽古に励みながら映画で子役も務めた経験のある櫻井眞審議委員。それぞれの体験をもとに、次世代を担う人材の育て方について語り合った。



日本銀行政策委員会 審議委員

櫻井 眞

SAKURAI Makoto

1946年東京都生まれ。69年中央大学経済学部卒業、76年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学、同年日本輸出入銀行入行、80年イエール大学経済成長センター客員研究員、89年日本輸出入銀行海外投資研究所調査研究グループ・開発経済グループ主任研究員、同年榊大正海上基礎研究所研究部長首席研究員、90年榊大正海上基礎研究所研究部長首席研究員、大蔵省財政金融研究所特別研究官、96年榊三井海上基礎研究所国際金融研究センター所長、2007年サクライ・アソシエイト国際金融研究センター代表、16年より日本銀行政策委員会審議委員。

偏差値エリートはもういらぬ
芸事に触れて「真善美」を学べ

しんぜんび



イエール大学名誉教授・東京大学名誉教授・内閣官房参与

浜田宏一

HAMADA Koichi

1936年東京都生まれ。54年東京大学法学部入学、57年に司法試験第二次試験合格。58年同大学経済学部へ学士入学。65年経済学 Ph.D. (博士号) 取得 (イエール大学)。東京大学経済学部教授等を経て、86年イエール大学経済学科教授。2001年から03年まで内閣府経済社会総合研究所長。現在イエール大学、東京大学名誉教授。12年からは内閣官房参与も務める。『経済成長と国際資本移動——資本自由化の経済学』(東洋経済新報社)、『グローバル・エリートの条件』(PHP 研究所)、『国際金融の政治経済学』(創文社) など著書多数。16年1月にはCD『平和の鳩』(アート・ユニオン) を発表し、作曲家としてデビュー。

覚悟を持って取り組んだ 金融論の研究と政策提言

櫻井 浜田先生とのお付き合いは、私が学生のころから始まり、半世紀近くになります。私は東京大学で先生に学んだ後、政府系の銀行等に勤めました。その間、国際金融に関係する仕事に携わっておりましたので、大学を離れてからも浜田先生には折々にご意見をうかがってまいりました。

浜田 思い返すと、櫻井さんが東京大学の院生でおられたころの教授陣は本当に豪華でした。理論経済学では宇沢弘文先生や根岸隆先生、戦後日本の経済学を牽引した小宮隆太郎先生、それから、私の恩師で金融論の館龍一郎先生も活躍しておられた。館先生は、私が法学部から経済学部に入学したころ、当時まだめずらしかった近代経済学に基づく金融論を講義しておられました。今でも忘れられないのは、講義の冒頭にダンテ『神曲』から、「この門より入る者は一切の希望を捨てよ」が引用され、その言葉で「自分の意見

が正しいと思うなら相手が誰であろうが、屈することなく主張する覚悟を持って」という意を館先生は伝えようとされました。そうした恩師からの教えは、その後の学者人生の大きな糧となりました。

櫻井さんとは一九七〇年代半ば、共著で世界の一流誌に共同論文を寄稿したこともありましたが、その後櫻井さんは経済・金融情勢などの師であります。

櫻井 当時は、私たちの研究がそのまま当時の世の中に当てはまるものではなかったと思います。しかし、市場や制度が整備され、当時の研究の成果が有効であることが分かってきました。研究は、しっかりと将来を見据えながら行わねばならない、ということを改めて感じているところです。

浜田先生は、あくなき探求心をもち続け、経済学に多大な貢献をされてこられました。国際金融へのゲーム理論(注)の応用は、浜田先生が世界で初めてだったのではないかと思います。

浜田 私の専売特許とまでは言いすぎです。私がイェール大学に

留学した時、ハーバート・スカーフ教授がゲーム理論を講義していた、その影響がありました。ゲーム理論では社会を構成する人や企業(国家)をルールに従って行動するプレーヤーとみなします。囲碁や将棋で駒を戦わせるように、金融政策の世界でも、自分の国がある政策を打てば相手の国も打ち手を変えてくるわけです。複数の国々がお互いに影響を与え合うことを考慮すべきなのです。現実社会でゲーム理論が応用されているのは主に経済の分野ですが、本来人間社会の科学的な理解を目的に生まれた学問ですから、国際紛争などの政治の問題や社会の多くの課題にも活用できるはずですよ。

幼少期の芸事で養われた 冷静な視線と豊かな心象

櫻井 浜田先生も私も歳を重ねたからでしょうか、最近は何味のお話をすることも増えてきたように思います。

浜田 宇沢先生が、櫻井さんのことを「艶のある人」と評していたように、櫻井さんは大学院生のころから女形の歌舞伎役者のような雰囲気がありました。うかがうところによると、岸恵子さんや若尾文子さんなど大女優とともに映画で子役を演じたこともあるそうですね。

櫻井 小さいころの私は浜田先生と好対照ではないかと思いが、読み書きそろばんといった教育はあまり受けていないんです。というのは、六歳のころから日本舞踊のお稽古を始めて、それがすぐくおもしろくて中学に上がるまで続けていたからです。映画に子役で出演したのも、日本舞踊のお稽古の延長だったと思います。撮影は長いと二カ月近く続きます。学校は休むことになりまして、落第しないように出席日数を数えながら撮影所通いをしていました。

ただ、振り返ってみますと、そうしたお稽古事を続けるうちに学校では学べないことが身についていることに気がきました。日本舞踊の稽古場では、さまざまな年代の方がいて、踊りの上手な人や良い形を見て、それをまねながら

(注) ゲーム理論／複数の主体が関わる環境下で、各々の行動や意思決定が自分以外の利害に影響を及ぼす場合において、いかなる行動や選択が最適かを解明しようとする理論。

舞踊を自分のものにしていくしか習得の方法がありません。そのおかげで立ち居振る舞いや礼儀だけでなく、ものを全体として捉えること、そして自分で考える力が養われた気がします。

浜田先生は作曲家でもありますが、小さいころから音楽に親しんでこられたのでしょうか。

浜田 両親が英語の教師だったこともあり、西洋文明に対する目や、キリスト教的な文化が自分の中に自然に入っていました。また、私が幼いころから、父はバイオリン、母はマンドリンを弾いていて、音楽に囲まれた、恵まれた環境で育ったように思います。私が小学生のころ、父が埼玉県熊谷市で女子高校の校長に転任し、家族で郊外の荒川の近くに移ったのですが、田畑の一面にレンゲ草が咲いている風景や秩父の山並みは、私にとって良い情操教育にもなったでしょう。作曲に興味は湧き、北原白秋の詩にメロデーをつけたりしていましたね。父の学校の先生から音楽の手ほどきを受けたりもしました。

櫻井 その後も音楽を続けてこれ、八〇歳で自作曲を収録したCDを出されました。

浜田 親から「音楽は趣味に」と言われて学者の道を選んだのですが、情景の浮かぶ詞があると曲をつけなくなるんです。東京大学在学中には応援歌を作曲し、それが大学内の公募で入賞して、神宮球場で歌われました。その応援歌を東大野球部出身で、日銀の理事もされた南原晃みなはらあきらさんに東大ホームカミングデー（大学の交流イベント）で聴いていただき、もう一度神宮で歌ってあげるとのうれしいお言葉をいただきました。残念ながら、個性豊かな南原さんは故人となられてしまいました。CDは、日本開発銀行（現・日本政策投資銀行）を経て音楽プロデューサーになった中野雄なほ先生にお世話になったんです。私の楽譜を見てもらったところ、世に出していただく運びになりました。

各国中央銀行にも音楽を愛する方が多い。日銀の雨宮正佳副総裁は音楽に造詣が深く、アメ

リカの中央銀行であるFRB（米連邦準備制度理事会）のリチャード・クララダ副議長も音楽好きですね。彼と私はイェール大学で同僚だった時期があり、この間久しぶりに会って、私の曲のCDを手渡ししたら、すぐ引き出しから彼の作曲したCDをお返しにくれました。「一生懸命にCDを作ったけど、これでは百ドルも稼げない」と笑っていましたが。

櫻井 浜田先生のお話からも、自身の経験を振り返ってみても、お稽古事や趣味の源泉には知的好奇心があると思います。浜田先生は音楽を通して、私の場合は日本舞踊が上達する過程で、その心が満たされていったのではないかという気がします。

既存のものに捉われるな 新しい発見から創造せよ

浜田 舞踊や音楽などを習うのは、多様な発想ができる人になるために重要だと思います。「かわい子にはお稽古事をさせよ」と言いたいですね。

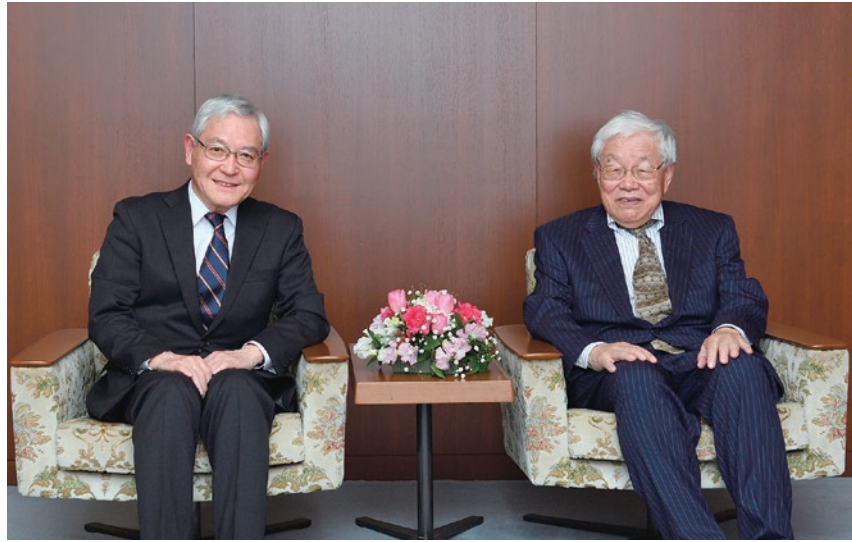
櫻井 浜田先生は以前から日本の

偏差値教育を批判されていますね。

浜田 偏差値を重んじすぎると、記憶重視で創造性を軽視することになりかねません。日本では暗記や計算を偏重し、とにもかくにも点数が高ければ良い生徒とされる。そういう人ばかりが官庁や大企業に入り、組織のリーダーになつていく、その構造が問題なのです。点数で選ばれたエリート層だけでは、先行きの予測が難しいこれからの時代を乗り切ることはできません。

正直いうと私のキャリアは読み書き偏重、成績重視の日本の教育システムに多大な恩恵を受けているので自分からは言いにくいのですが、読み書き記憶の得意な人は、六、七十%くらいは創造性や応用力もあると思いますが、中には成績だけが看板みたいなエリートも少なくない。真に創造性のある人が、テストの点数が良くないがために「エリートから外れている」ような状況は、社会にとってマイナスです。

ゼミ生たちを見ると、どちらか



というところ、成績優秀だった人よりも、成績はそれほど良くななくても、創造性がある人、人柄に魅力がある人が大きく活躍しています。

AI（人工知能）の登場で大量のデータ解析などが可能になってきました。でも、そもそもAIに何を記憶させ、計算させるべきかを、先行きを予想しながら、私たちが判断できないと意味がありません。そのためには、テスト勉強をするだけではなく、幼いころから

芸事などを通じた学びも必要なのではないでしょうか。

櫻井 同感です。感動や驚きなどは芸事に触れるなかで出会うことが多いと思います。それを学校で伝えることができるかどうかというとなかなか難しい。読み書きそろばんの点数だけでは測れない力をどれだけ育めるかが重要だと思います。

私がやってきた日本舞踊は独りで演じますので、すべて自分次第です。そういった日本舞踊を通じて身に付いたものが自分の中にしみ込んでいくからでしょうが、仕事においても、周りがどうというより、まず自分がどうしたいのかを自分で考えて表現していかねばいけない、と常に思っていました。そうした姿勢や考え方が自分を知らず知らずのうちに成長させてくれたのかもしれない。

浜田 そういうことはあるでしょうね。イェール大学では、医学生が入学すると、まず大学のアートギャラリーに連れて行き、絵画を見せるんだそうです。これは何期印象派の絵だとか教えるの

ではなく、その絵がなぜ人に訴えるのかを考えさせるのだと。デジタル的な要素だけでなく、アナログ的な力も鍛えようとするわけですね。読み書きそろばんの能力を鍛える教育も重要であることは否定しませんが、そればかりでは不十分です。先ほどの櫻井さんの話にも通じますが、芸事から得たアナログな思考力をもっと大事にされるべきです。

櫻井 学生時代、浜田先生は学生に何度も「あなたは、『何か新しいこと』を発見できたか」と問うておられました。また、宇沢先生は「これまでと同じような発想をしてはいけない」が口癖でした。お二人に共通しているのは、既存の在り方に捉われず、新しいものを見つけようとしているかという姿勢。そういう生き方の基本を、私は恩師から繰り返し教えられたんです。

浜田 そう思ってもらっていたとしたらうれしいですね。自分で発見し、何かを創り上げる力を、学生のうちから鍛えてもらいたい。また、周囲に矛盾があれば、けん

かせずにそれを指摘し、説得する能力が必要です。そのためには日本は画一的すぎる今の教育を変えなくてははいけません。学校だけでなく親もです。子どもがやりたいことを見つけ、それを思う存分發揮させることを考えないといけません。

先ほど、成績はそれほど良くなくても、創造性のある、魅力的な人が卒業後活躍している話をしましたが、どうしたらそうした人になれるのか。独立研究者の山口周氏のいうように、「真善美」を追求する時間を持つことが必要だと思います。スポーツも勝つことだけでなく、同様の意味で極めて重要です。良き教育の中で育ってきた人材は、やがて現実の上に理想を追求しながら、自分自身で思い切った決断ができる人になる。そうした人材が技術革新を生み、経営でも行政でも政治でも、これから世の中にもっと必要になると確信しています。

櫻井 本日は、貴重なお話をありがとうございました。

刻々と変化する海外の実像に迫る

金融・経済のグローバル化に伴い、海外の動向を迅速かつ的確に捉える重要性が高まっています。そうした中、現地ならではの情報を収集して各種の調査を行ったり、日本銀行の連絡拠点として現地当局等との調整を担ったりすることで、本店の業務をサポートするのが海外事務所。今回はそのひとつ、北京事務所をご紹介します。

**現地メディアからの情報等を
読み解き状況を的確に捉える**

ニューヨーク、ワシントン、ロンドン、パリ、フランクフルト、香港、北京。日本銀行には現在、五カ国計七カ所に海外事務所が設けられています。そのひとつ、北京事務所は北京市のビジネス街にあり、北京随一の高さを誇る「中国尊^{チャイナズン}」など高層ビル群を見渡せるロケーション。「中国の経済発展を実感できる職場」と話すのは、二〇一八年五月に事務所長として赴任した東善明^{あずまよしあき}さんです。

東さんを含め日本人駐在員が三名、現地スタッフ二名という北京事務所の役割の一つは、中国の金融・経済状況の調査。

国際局をはじめ日本銀行本店でも同様の調査は行われていますが、本店では主に公表された統計やレポートに基づく分析が中心で、日本語や英語を通じた情報がベースとなります。これに対して北京事務所が担うのは、中国のメディアや現地識者等を介した情報収集です。そうした情報収集の悩ましさと醍醐味^{だいがみ}について東さんはこう語ります。

「北京事務所として頭を悩ませるのは、調査テーマが常に山積している中で、収集する情報をいかに取捨選択するか、ということ。景気動向や金融政策に限らず、金融システムから政治・外交、社会問題、デジタル経済まで、日本銀行として中国に対し関心を寄せる分野は実に

幅広い。駐在員の数が限られる中、絶えず優先順位を判断しながら調査を進め、タイムリーに情報を本店に発信するよう努めています。そうした情報が支店長会議でも報告され、中国の現状の理解を深めるのに役立っているわけです」

中国で情報収集をする上で特に気を遣うのは、国営メディアや、党・政府が開催する重要な会議の扱いだとか。それらは、党・政府の考えを代弁しているというところを考慮しながら読み解かなくてはならないとしつつ、東さんはこう言います。

「国営メディアは党・政府の意思や論理を正確に発信していますから、情報収集の出発点です。しかし当然、プロパガンダ（主張の宣伝）的な側面もあります



中国の景気情勢について打ち合わせ



ので、その妥当性を他のメディアや識者の見方などを通じて確認する姿勢が必要です。また定期的に開催される党・政府の重要な会議については、会議後に公表される文書の、前回からの変化に注目します。強調ポイントが変化したり、新たな表現が加わったり。

そのひと言ひと言に党・政府のメッセージが託されているわけですが、漢字で数字の抽象的なキーワードも少なくなく、具体的な解釈を見極めることが重要になります」

このため情報収集に当たっては、単にメディアの論調を紹介するのではなく、政策当局の関係者や識者と直接面談し、情報の読み方を知ることでも大事な仕事。そうした現地の生きた情報は、日本銀行全体としての調査に一層の厚みを与えるとともに、新たな視点を加えることにもなります。

北京事務所が作成するレポートは、年に七〇〜九〇本。広大な国土を持ち、ダ

イナミックな変化を遂げる中国について週一本以上のペースでレポートを作るのは大変です。テーマによっては、本店の関係部署の問題意識を事前に把握したり、他の海外事務所と連携して作成したり、といった工夫もあるのだとか。例えば、現在中国で発行に向けた準備が進められているデジタル通貨については決済機構局（注1）と、中国と米国の貿易摩擦についてはワシントン事務所と、などといった具合です。

「役員や本店の各部署が求めるニーズに合った情報をタイムリーに発信することが、海外事務所に期待されています。役に立った、興味深かったという反応があると、励みになりますね」

現地ではしか得られない情報を的確に収集する目利き力

東さんが語学留学のために初めて北京に滞在したのは、二〇〇一年の一年間。その後、二〇〇七〜一〇年には北京事務所調査担当者として赴任、そして事務所長としての今回の赴任。このように東さんは三度中国で暮らしていますが、そのたびに金融・経済や社会状況は大きく変わってきました。中国に関して特筆すべきは、その変化・発展のスピードが桁

違いに速いことだと東さんは力説します。

「私が最初に中国に語学留学した二〇〇〇年前後は、海外のさまざまな企業が、低賃金の労働力を求めて中国に工場をつくり、『世界の工場』と言われていた頃。二度目に中国で生活した二〇一〇年頃は、国全体の所得水準が上がってマーケットが広がり、『世界の市場』とリンピック（二〇〇八年）や上海万博（二〇一〇年）が開催され、劇的な変化を遂げる様子を間近で見ることができました。今回の赴任では、モバイル決済や顔認証システムなど新しい分野において中国独自の急速な発展が見られ、『世界の実験室』ともいえる様相を呈しています」

目覚ましいインフラ整備の進展も、この間の目に見える大きな変化だといいます。

「昨年、一〇年ぶりに四川省の田舎を訪問した時には、ひとつひとつの村々が舗装道路でつながったことに驚きました。これにより、農村にはさまざまな商品が届き、農民が自動車を購入し、工場も進出できる。国土が広く、一国の中でも地域によって発展段階が大きく異なる。そういう多様性を実感できるのは中国ならではのことで、興味深いですね」

統計データの背後にある社会構造の変

（注1）決済機構局の業務については本誌2014年40号および2017年50号のFOCUS→BOJをご覧ください。

化を把握するためにも、中国各地への出張を積極的に行い、国情の理解に努めることも大事な役目です。

「景気の変動を把握することも大事ですが、それにもまして、社会の仕組みのダイナミックな変化を的確に捉え続けなければならぬところに、中国独特の難しさと、そして面白さがあります。『社会主義を維持しつつ市場経済を目指す』という中国独自の取り組みは、改革と呼ばれる社会実験的な制度変更の連続なのです」

調査と並ぶ海外事務所的重要な任務が、現地での連絡や対外活動。中国の中央銀行にあたる中国人民銀行のほか、金融当局や政府関係者、識者に加え、中国に進出している日系企業とも、頻繁に意見交換を重ね、継続的に交流を深めます。そうした中で、中国側から日本銀行本店への訪問の要望を受けることも多く、国際局国際連携課(注2)等の協力を仰ぎながら、その実現を図ることもあります。そのほか、過去の日本の経験について聞かせてほしい、という依頼も多く、事務所長として講演も積極的に行っています。「中国は、モバイル決済や人工知能など世界の最先端とも評される分野がある一方、日本にとっては過去のものとも映

る問題、例えば、貿易摩擦、金融自由化、市場開放などは現在進行形の問題として対策を迫られているんです。こうした問題について、日本がどのように対応してきたのか、その経験を学びたいという声は多く聞かれます。内容は違えど、他の海外事務所でも同じことが言えると思います。欧米の海外事務所では、日本が世界に先駆けて実施してきた非伝統的と呼ばれる金融政策を知りたいという声があると聞きます。日本の経験をその国の当局者・識者に発信していくことも、海外事務所の大切な任務なんです」

自国の経験を中国と共有することは、現地における関係者との連携強化につながる上、日本が歩んできた道を振り返ることで広い視点を養う機会にもなる、と東さんは話します。

現地の文化を深く学び 独自の流儀を受けとめる

中国は英語があまり通じない社会ゆえ、仕事をするために中国語の習得は必須。そうした言語環境だけでなく、ビジネス慣行や文化においても、日本や欧米とは違う、ということをしつかり踏まえる必要があるのだとか。

「政府関係者と面談を設定するのは大

変なんです。なかなか予定を決めてくれない上に、決まったはずの日程の時間の変更や当日キャンセルも珍しくありません。ですから、面談が始まるまで気が抜けません。日本や欧米ではそういうことはほとんどない、中国独特の事情ですね」

そうしたビジネス慣行の背景には、何を置いても最優先の重要な会議などが、必要とあらば突然開催される組織文化があるのだとか。中国特有の事情とはいえ、本店の各部署からの出張者対応時など、気をもむことは多いとのこと。ただ、東さんによると、そうしたビジネス慣行は、中国の方の気質による部分もありそうだとはいいます。

「ビジネスでもプライベートでも、中国の方は、突然来訪することがあります。



中国人民銀行に向かう時は天安門前を通ります

(注3)「雄安新区」計画／広東省の深圳経済特区や、自由貿易試験区として大胆な規制緩和等が進められている上海市の浦東新区などに続く国家プロジェクト。1000年大計(1000年にわたる大計画)とも呼ばれる。

東さんが講演等で定期的に訪れる上海のビル群



日本の感覚からすると失礼だなども感じますが、不在であれば、また今度、とあっさり帰っていくんです。欧米ほど形式張らずに人の往来がある。一見、自由気ままに見えるかもしれませんが、悪気はありません。お互いのわがままを許容し、尊重する寛容な社会、と言えるのかもしれませんがね」

過去、未来ともに、時には一〇〇年単位の長いスパンで考えるのも中国流だと東さんは言います。

「何もなかった農村に巨大スマートシティを建設する、『雄安新区』計画(注3)が河北省で進められています。中国政

これは中国の政治体制ならではだと感じますね。もちろん一党政治には負の部分もありますが、一四億人が暮らす社会、経済をコントロールし、生活水準を向上させながら暮らしていけるようにしていることは認めなければならぬでしょう。いろいろと考えさせられる国ですね」

そんな東さんが日頃から心がけているのは、中国古来の漢詩を多く覚えることだとか。面談や宴会の席で、覚えた漢詩を使って話をする、先方との距離がぐっと縮まり、同じ漢字を使う国である日本に親近感を感じてくれるのだとか。

中国に三度、計六年滞在している東さんに、中国の一番の魅力は何うとこんな答えが返ってきました。

「友情に厚いこと、ですね。もう一〇年来の付き合いとなる中国の友人は、私が以前中国から日本に帰任した後も、彼が所用で日本に来るたびに必ず会いに来てくれました。会わない時期が何年あるうとも、友情を継続することに労を惜しみません。また、言葉を大切にしているのも魅力です。中国の方は、親しい人に対してめったに『ありがとう』と言いません。『ありがとう』という言葉は、その人との間で距離を感じさせる、『水くさい』感じがするんだそうです。だから

こそ、中国の方が『ありがとう』という時、その気持ちは強いとも言えます。ひとつひとつの言葉が重いです」

海外事務所で働く上で文化や人に対する理解が大切になるという東さんはこう言います。

「新任の駐在員には、まず中国の生活を楽しみ、中国を好きになることが一番大事だと伝えていきます。好きにならないと、その国のことを知ろう、学ぼうという意欲も湧きませんから」

今後も、役員や関係部署に、中国で起きている多くの変化の何を伝えなければならぬか、その洞察力を養うことが重要だと話す東さんは、最後にこう付け加えました。

「日本や欧米の感覚で中国を見ると、まだまだ遅れているように思うかもしれませんが。しかし、もしかしたら、中国はわれわれが知る価値観とは違う進化を遂げるかもしれない。そういうことも頭に入れつつ、この国で起きていることを正確に伝えていきたいと思っています」

激動の中に身をおきつつ、北京事務所の職員は、今日もアンテナを高く張り巡らせ、情報収集、現地での交流に努めています。



日本銀行のレポートから

日本銀行は、1、4、7、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。本稿では、2020年1月の展望レポート（基本的見解は1月21日、背景説明を含む全文は1月22日公表）のポイントを解説します。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/

「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）

— 二〇二〇年一月 —

二〇一九～二〇二一年度の 中心的な見通し（図表1・2）

【景気】

当面、海外経済の減速の影響が残るものの、国内需要への波及は限定的となり、二〇二一年度までの見通し期間を通じて、景気の拡大基調が続くとみられる。

輸出は、当面、弱めの動きとなるものの、海外経済が総じてみれば緩やかに成長していくもとで、基調としては緩やかに増加していくと考えられる。国内需要も、足もとでは消費税率引き上げや自然災害などの影響から減少しているものの、きわめて緩和的な金融環境や積極的な政府支出などを背景

に、所得から支出への前向きな循環メカニズムが持続するもとで、増加基調をたどると見込まれる。

【物価】

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、当面、既往の原油価格の下落の影響などを受けつつも、見通し期間を通じてマクロ的な需給ギャップがプラスの状態を続けることや中長期的な予想物価上昇率が高まることなどを背景に、二％に向けて徐々に上昇率を高めていくと考えられる。

リスクバランス

経済の見通しについては、海外経済の動向を中心に下振れリスク

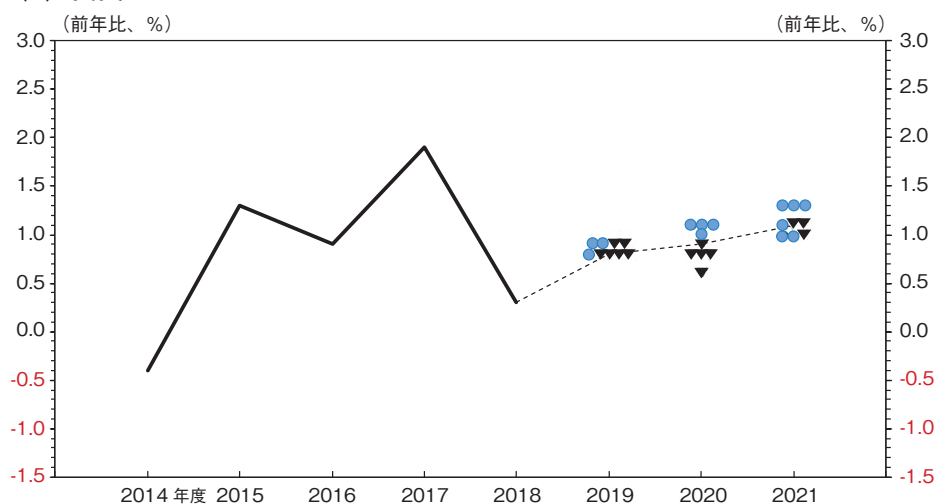
の方が大きい。物価の見通しについては、経済の下振れリスクに加えて、中長期的な予想物価上昇率の動向の不確実性などから、下振れリスクの方が大きい。二％の「物価安定の目標」に向けたモメンタムは維持されているが、なお力強さに欠けており、引き続き注意深く点検していく必要がある。

金融政策運営

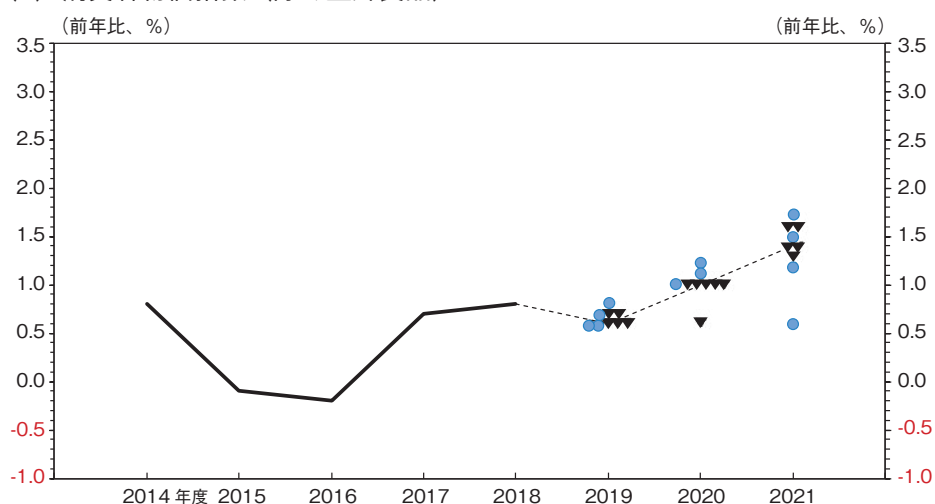
二％の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続する。マネタリーベースについては、消費者物価指数（除く生鮮食品）の前年比上昇率の実

図表1 政策委員の経済・物価見通しとリスク評価

(1) 実質 GDP



(2) 消費者物価指数 (除く生鮮食品)



(注1) 実線は実績値、点線は政策委員見通しの中央値を示す。

(注2) ●、△、▼は、各政策委員が最も蓋然性が高いと考える見通しの数値を示すとともに、その形状で各政策委員が考えるリスクバランスを示している。●は「リスクは概ね上下にバランスしている」、△は「上振れリスクが大きい」、▼は「下振れリスクが大きい」と各政策委員が考えていることを示している。

(注3) 消費者物価指数 (除く生鮮食品) は、2014年度、2015年度については、2014年4月の消費税率引き上げの直接的な影響を除いたベース。

図表2 政策委員見通しの中央値

	実質 GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	(参考) 消費税率引き上げ・教育無償化政策の影響を除くケース
2019年度	+ 0.8	+ 0.6	+ 0.4
(10月時点の見通し)	(+ 0.6)	(+ 0.7)	(+ 0.5)
2020年度	+ 0.9	+ 1.0	+ 0.9
(10月時点の見通し)	(+ 0.7)	(+ 1.1)	(+ 1.0)
2021年度	+ 1.1	+ 1.4	
(10月時点の見通し)	(+ 1.0)	(+ 1.5)	

(注) 教育無償化政策については、高等教育無償化等が2020年4月に導入されることを前提としている。

績値が安定的に二%を超えるまで、拡大方針を継続する。政策金利については、「物価安定の目標」に向けたモメンタムが損なわれる恐れに注意が必要な間、現在の長

短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している。今後とも、金融政策運営の観点から重視すべきリスクの点検を行うとともに、経済・物価・

金融情勢を踏まえ、「物価安定の目標」に向けたモメンタムを維持するため、必要な政策の調整を行う。特に、海外経済の動向を中心に経済・物価の下振れリスクが大

きいもとで、先行き、「物価安定の目標」に向けたモメンタムが損なわれる恐れが高まる場合には、躊躇なく、追加的な金融緩和措置を講じる。



日本銀行のレポートから

「地域経済報告」（さくらレポート）は、日本銀行本支店等が、日頃、企業ヒアリング等を通じて行っている各地域の経済金融情勢に関する調査の結果を、年4回（1月、4月、7月、10月）の支店長会議の機会毎に取りまとめたものです。また、その時々々のトピックスについても、本報告の別冊として、原則年2回、まとめています。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/

「地域経済報告」（さくらレポート）

I. 各地域の

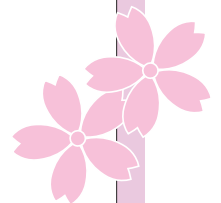
景気判断の概要

— 二〇二〇年一月 —

各地域の景気の総括判断をみると、全ての地域で「拡大」または「回復」としてゐる。この背景としては、海外経済の減速や自然災害などの影響から輸出・生産や企業マインド面に弱めの動きがみられるものの、企業・家計の両部門において、所得から支出への前向きな循環が働くもとで、設備投資や個人消費といった国内需要が増加基調を続けていることがある。

	【19/10月判断】	前回との比較	【20/1月判断】
北海道	緩やかに拡大している	➡	緩やかに拡大している
東北	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復を続けている	➡	弱めの動きが広がっているものの、緩やかな回復を続けている
北陸	緩やかに拡大している	➡	引き続き拡大基調にあるが、その速度は一段と緩やかになっている
関東甲信越	輸出・生産面に海外経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに拡大している	➡	海外経済の減速や自然災害などの影響がみられるものの、基調としては緩やかに拡大している
東海	拡大している	➡	緩やかに拡大している
近畿	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな拡大を続けている	➡	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな拡大を続けている
中国	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに拡大している	➡	幾分ペースを鈍化させつつも、基調としては緩やかに拡大している
四国	回復している	➡	一部に弱めの動きがみられるものの、回復している
九州・沖縄	緩やかに拡大している	➡	緩やかに拡大している

（注）前回との比較の「➡」、「➡」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➡」）。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➡」となる。



前回（二〇一九年十月時点）と比較すると、三地域（北陸、東海、中国）が判断を引き下

げた一方、残りの六地域では判断に変更はないとしている。

II. 別冊「地域における人材の確保・育成に向けた企業等の取り組み」

— 二〇一九年十二月 —

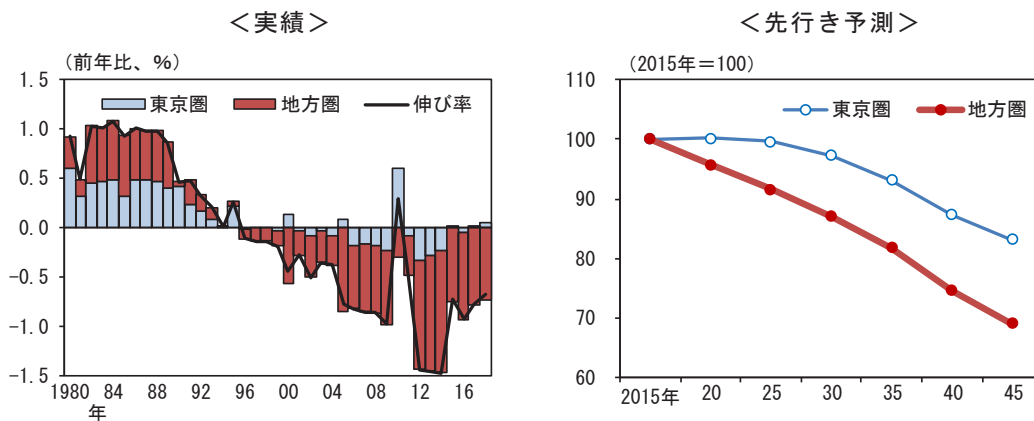
1. はじめに

わが国では、企業等の人手不足の強い状態が続いている。人手不足の背景には、景気の回復・拡大基調に加えて、一九九〇年代半ば以降、生産年齢人口が減少傾向をたどっていることがある。東京圏と地方圏を分ける（注1）、特に地方圏における減少が目立つ。先行きについても、二〇一五年を起点とした五年ごとの累積変化をみると、東京圏が二〇二五年まではほぼ横ばいとなる中、地方圏は三〇年間で約三割減少する予測となっ

ている（図表1）。

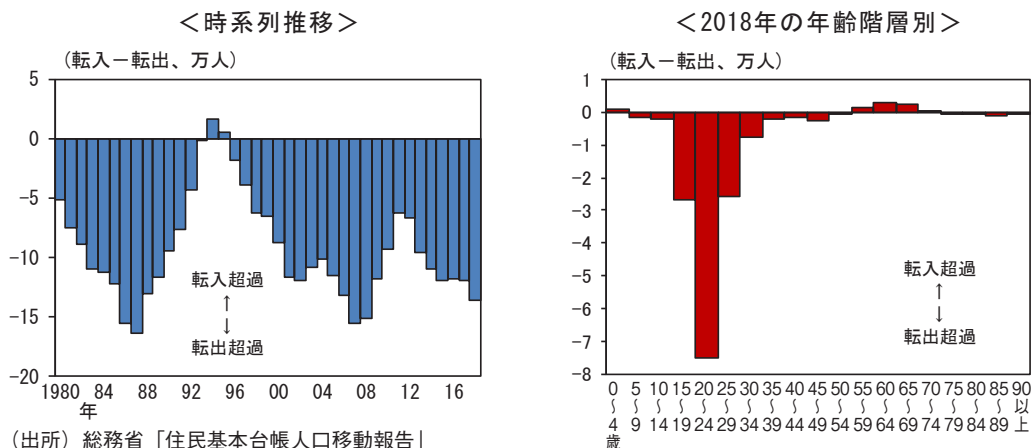
地方圏では、若年層を中心とした東京圏への人口転出が生産年齢人口の下押しに効いている。地方圏から東京圏への転出超過数は、ここ数年は景気の回復・拡大が続くもとで増加傾向にある。二〇一八年の人口移動を年齢階層別にみると、一五歳から二九歳の若年層の転出が多い（図表2）。これは進学・就職を機に東京圏に転出すること

図表1 生産年齢人口の推移



（出所）総務省「人口推計」「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

図表2 地方圏から東京圏への転出入の状況

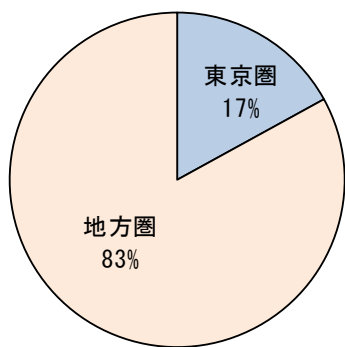


（出所）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

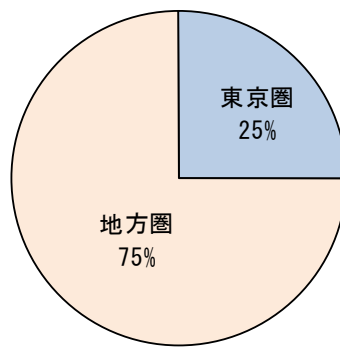
（注1）本稿では「東京圏」とは東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県を指す。これに対し「地方圏」という場合は、東京圏以外の道府県を指す。

図表3 進学・就職の際の東京圏への転出

<地方圏の高校生の進学地域>



<地方圏の大学生の就職地域>



(出所)
文部科学省「学校基本調査」、内閣官房「東京一極集中の要因分析に関する関連データ集」

を示している(図表3)。人口の減少は、地域経済にとって消費市場の縮小と労働力の

減少という需要・供給の両面から負の影響を及ぼす。こうした構造的な下押し圧力に対して、地方圏を中心に企業等から強い危機感が示されている。

こうした生産年齢人口の減少という逆風のもとで、企業や自治体、教育機関等は、人材の確保・育成にどのように取り組んでいるのであろうか。企業等を取り巻く環境は、こうした構造的な下押し圧力だけでなく、働き方に関する人々の考え方の多様化などにより、大きく変化している面もある。

以下では、日本銀行本支店・事務所が実施した全国約一八〇〇先の企業等に対する聞き取り調査の結果に基づき、個別の企業等の取り組みや地域に人を呼び込むという視点からの関係者間での連携の動き、それによる成果、そして地域全体の課題や展望について整理する。

2. 人材の確保・育成に向けた具体的な取り組み

(1) 個別企業の取り組み

まず、個別の企業等から聞かれた人材の確保・育成に向けた取り組みを概観する。企業等の取り組みは、相互に重なり合う部分があるものの、以下のとおり、大きく五つの特徴的な動きに整理できる。

① 企業の認知度向上による中長期的な採用力の強化

第一は、企業の認知度向上による中長期的な採用力の強化である。小中学生などを対象としたイベントの開催などを強化し、企業の情報発信を通じて中長期的な採用力を強化しようとする動きがみられる。

② 採用範囲の拡大と自前の人材育成の強化

第二は、人材の採用範囲を拡大しつつ、必要な人材を自前で育成する動きである。スキルのある人材の需給がタイト化する中、入社後に自社内で必要なスキルを習得させることを前提に、幅広い人材を採用するケースが増えているほか、将来の幹部等を自社内で戦略的に育成するケースもみられる。

③ ダイバーシティの推進

第三は、ダイバーシティを高め、事業拡大につなげる動きである。これまでも女性や高齢者の採用を積極化してきた中で、最近では外国人材の活用を進める動きがみられる。活用の仕方についても、これまでのような国内の労働力の代替に加え、最近では海外への

新たな事業展開を見据えた採用もみられている。また、オンラインゲームを通じて知り合った無業者や自社を一度退職した人など、従来の枠を超えて広く多様な人材を採用し、戦力化する先もある。

④ 就労意識の変化への制度・運用面のきめ細かな対応

第四は、近年の就労意識の变化等を踏まえ、給与や勤務体系等をきめ細かく見直す動きである。ワーク・ライフ・バランスを重視する傾向などを踏まえ、働き手のニーズやライフステージに応じて給与や勤務体系等を柔軟に見直すことにより、離職抑制等に取り組み動きがみられる。

⑤ 給与・人事制度の見直し等を通じたモチベーションの向上

最後は、給与・人事制度や経営のあり方を思い切って見直す

ことにより、従業員のモチベーションの向上を図る動きである。経営への参画機会や現場の裁量の拡大、能力開発の機会の提供などによってモチベーションを引き上げることを通じて、生産性の向上や離職抑制を図っている。

このように、人手不足感が強い中、人材の確保・育成に向けた取り組みを具体化させる企業は、地域を問わず存在している。こうした企業に共通しているのは、多様な人材が活躍できる環境を整備することが人材を確保する必要条件であるとの認識や、自社で獲得し得る人材を自前でしっかりと育成していかなければ企業としての成長は難しいという認識であると考えられる。

(2) 関係者と連携した取り組み 人材の確保・育成に向けた動

きは個別企業に限ったものではない。地域に人を呼び込むという視点から、企業が地域の教育機関や自治体等と連携して取り組み動きもある。特徴的な取り組みとしては、以下の二つが挙げられる。

① 教育機関等との連携の強化

第一は、教育機関等との連携の強化である。地域における人材の確保・育成に向けて、企業と教育機関等、あるいは地域の企業間で連携を強化し、やや長い目でみて地域で活躍する人材の育成・定着につなげていこうとする取り組みがみられる。

まず、企業と教育機関等の連携である。これまで連携と云えば、企業が自治体と連携してUターン等を促進する取り組みが多くみられていたが、最近はそのような回帰を促すための連携に加え、転出を抑制するための連

携がみられている。具体的には、教育機関が地元企業の技術者を講師として招いてリレーシオンを強化したり、地元企業へのインターンシップ等を連携して企画したりする取り組みである。これらは若年層の目を地域に向けさせ、広く地域に対する理解を深めてもらうことに主眼がある。

次に、企業間の連携である。限られた人的資源を地域内で効率的に活用するために、季節的な繁閑に応じて企業間の派遣により人材を融通したり、副業を認めることで人手不足に悩む地元企業を支援したりする動きがみられている。

② 地域の「強み」を活かした事業や起業への支援

第二は、地域の「強み」を活かした既存の事業やスタートアップを支援する取り組みである。農業や観光など地域の「強

み」を活かした事業の拡大や成長性の高いスタートアップを地域が一体となって支援し、地域全体として雇用創出力を高めようとする動きがみられる。

生産性の高い企業が新規かつ継続的に参入することは、地域経済の持続的な成長につながる。現時点では地方圏における開業率は東京圏と比べて低い(図表4)、今後、関係者の取り組みにより差別化された製品やサービスを提供する事業の起業が増え、地域全体の雇用創出力の向上につながっていくか注目される。

3. おわりに

課題と展望

地方圏における人材確保の状況は、東京圏への人口シフトが続いていることが示すとおり(前掲図表2)、全体としてみれば

引き続き厳しい。しかし、前節でみたように、個別にみれば人材の確保・育成に一定の効果を見せていると思われる取り組みが地域を問わず存在する。

人材の確保・育成を進めていくうえでの課題については、個社レベルのものも含めると、業種や地域を問わず数多くの指摘が聞かれた。それらの中から、「地域全体」かつ「中長期」の視点から指摘された課題を大きく整理すると、①デジタル化などの環境変化への対応、②地域の基礎体力の向上、③粘り強い取り組みという三点に分類できる。

それぞれの課題の克服は容易ではないが、前節で整理した様々な取り組みのほかに、テレワーク(注2)や5Gの活用、住みやすいまちづくりや教育環境の整備など、地域全体の底上げにつながる前向きな取り組みは数多く聞かれており、一部か

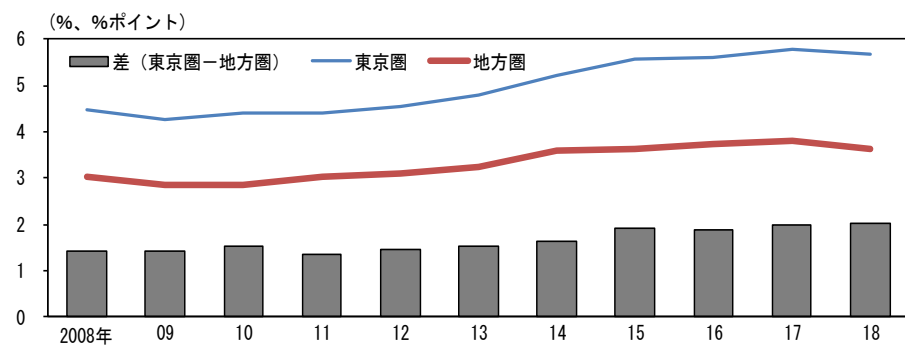
らは実際に成果が上がりつつあるとの声も聞かれている。

政府は地方創生の第二期(二〇二〇～二〇二四年度)「総合戦略」の策定に向けて、施策の方向性を示した「まち・ひと・しごと創生基本方針」を二〇一九年六月に閣議決定した。それによると、特定の地域と関わり続ける「関係人口」の創出に加え、Society 5.0(注6)の実現に向けた技術の活用などの新たな視点を打ち出している。

本稿で紹介したような企業等の前向きな取り組みが、この戦略に基づく各種政策と相俟って、地方圏における人材の確保・育成とともに、中長期的な地域活性化につながっていくか注目される。

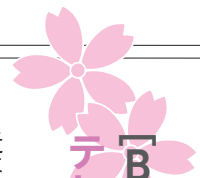
(注2) 一般社団法人日本テレワーク協会によると、テレワークとは「情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと」と定義されている。詳細は次ページを参照。

図表4 開業率の推移



(出所) 法務省「登記統計」、国税庁「国税庁統計年報」

(注3) 「第5期科学技術基本計画」(二〇一六年一月策定)では、人類がこれまで経験してきた社会を、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)と呼び、これらに続くべき新たな社会を「Society 5.0」と名付けた。



「BOX」

テレワークの活用による新しい働き方の実現

近年、働き方の多様化や情報通信技術の進化などを受けて、企業においてテレワークを活用する動きが広がっている(図表B1)。テレワークは、企業等に雇用されている労働者による「雇用型」と個人事業主による「自営型」に大きく分けられる(図表B2)。地方圏の企業からは、人材の離職抑制などを目的に前者の導入を積極的に進めるとの声が聞かれている。

自治体でも、地域への人の流れを作り出すサテライトオフィスの誘致に対する積極的な姿勢が目立つ。一部の自治体からは誘致により人口の社会増を実現したとの声も聞かれている。

による副業・兼業の拡大を後押しする動きなどから増加しているとみられる(図表B3、B4)。

もともと、利用企業からは、クラウドソーシングなどによるフリーランスの活用について、労務管理が複雑になることへの懸念や外部人材を活用することへの不安を指摘する声などが聞かれている。その一方で、サービスを運営する企業からは、地域における人材確保の考え方を変えていく可能性が指摘されている。

クラウドソーシングはまだ黎明期にあるサービスであるが、スキルシエアを通じて地方と都市がつながる仕組みは、地方圏の企業等における新たな人材確保のかたちとして注目される。

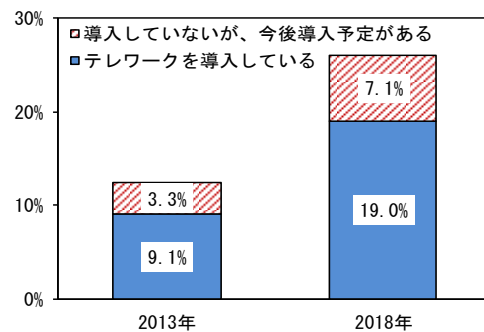
(注4) クラウドソーシングとは、不特定の人(crowd#群衆)に業務委託(sourcing)するという意味の造語で、インターネットなど情報通信技術を活用して必要な時に必要な人材を調達する仕組みのこと。

図表 B2 テレワークの形態

形態	勤務場所による区分
雇用型	在宅勤務 (自宅)
	モバイルワーク (外出先)
	サテライトオフィス (本来の勤務先以外の場所)
自営型	(自宅や共用オフィスなど)

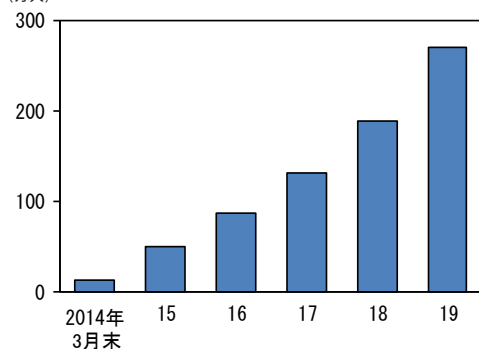
(出所) 総務省「通信利用動向調査」

図表 B1 テレワークの導入状況



(出所) 総務省「通信利用動向調査」

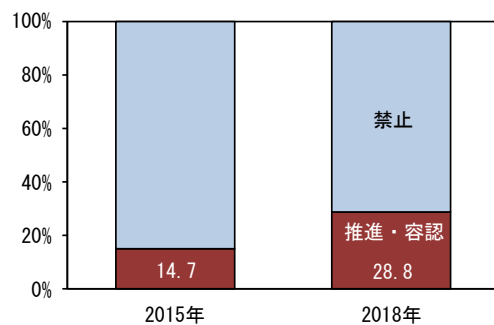
図表 B4 クラウドワーカー数



(注) 図表 B3 では両年の調査方法が異なるため厳密な比較はできない点に留意する必要。

(出所) (株)リクルートキャリア「兼業・副業に係る取組み実態調査事業報告書(中小企業庁委託事業)」「兼業・副業に対する企業の意識調査」、(株)クラウドワークス「2019年9月期通期決算説明資料」

図表 B3 副業・兼業のスタンス



「FSBレポ統計の日本分集計結果」の公表を開始

▼日本銀行は、一月二十七日に「FSBレポ統計の日本分集計結果」の公表を開始しました。

「レポ」とは、資金と証券を取引の相手方と交換し、一定期間後に返還する取引のことです。この統計は、金融危機時の教訓を踏まえた国際的な取り組みの一環として、金融機関から収集したわが国における個別のレポ取引のデータを、市場の透明性を一段と向上させるために、集計・公表するものです。

▼この統計では、従来の調査や統計では把握できなかった通貨別や取引相手の所在地別の情報などを、月次の頻度で公表しています。

▼レポ取引は、市場において活発な取引を行ううえで欠かすことのできない重要な機能を果たしています。日本銀行は、この統計の公表が、金融市場の機能

度や安定性の維持・向上に資することを期待しています。

詳細は日本銀行ホームページをご覧ください。



(注) FSB (Financial Stability Board: 金融安定理事会) は、主要二五カ国・地域の中央銀行等が参加し(二〇一九年末現在)、金融システムの脆弱性への対応や金融システムの安定を担う当局間の協調の促進に向けた活動などを行っています。

主要中央銀行による中央銀行デジタル通貨の活用可能性を評価するためのグループの設立

▼カナダ銀行、イングランド銀行、日本銀行、欧州中央銀行、スウェーデン・リクスバンク、スイス国民銀行、国際決済銀行(BIS)は、それぞれの国・地域において中央銀行デジタル通貨の活用可能性の評価に関する知見を共有するために、グループを一月に設立しました。

▼このグループは、中央銀行デジタル通貨の活用のあり方、クロスボーダー(国境をまたぐ)の相互運用性を含む経済面、機

能面、技術面での設計の選択肢を評価するとともに、先端的な技術について知見を共有し、関連する機関等と緊密に連携していく予定です。

「NGFS」への参加について

▼日本銀行は、二〇一九年十一月に「NGFS(Network for Greening the Financial System)のメンバー」となりました。NGFSは気候変動リスクへの対応について、メンバー間で経験を共有し、検討することを目的とした、中央銀行・金融監督当局のネットワークです。

日本銀行では、本ネットワークへの参加を通じて、気候変動リスクに対する理解を高め、国際的な議論へ参画していきま

す。

ファイナンス・ワークショップを開催

▼金融研究所では、二〇一九年十一月二十八日に、「ビッグデータ・AIを活用したリスク計



開会挨拶を行う関根金融研究所長(左)と基調講演を行う大橋和彦教授(右)

測・分析」と題するファイナンス・ワークショップを開催しました。

▼六回目の開催となる今回のワークショップには、ファイナンス論に詳しい研究者・実務家のほか、日本銀行関係者を含め約七〇名が参加しました。基調講演に続いて、金融研究所のスタッフにより、三本の研究論文が報告されました。

▼一橋大学の大橋和彦教授による基調講演では、ビッグデータとAIに関連するファイナンス研究について、最近の事例を踏まえながら、新しいデータ、新



職員による研究報告の様子

しい手法、新しい課題という三つの切り口から、論点整理がなされました。

▼金融研究所のスタッフが行った一本目の報告では、解釈可能な深層学習モデルを株価収益率ボラティリティ（変動性）予測に応用し、その予測精度を伝統的なモデルと比較した研究が発表されました。

▼同一本目の報告では、不確実性やリスク回避の代理変数とし

て注目を集めている分散リスク・プレミアムと将来株価収益率の関係を実証・理論の両面で分析した研究が発表されました。

▼最後の報告では、企業の倒産予測を対象として、機械学習と人間の予測精度が相違する要因を、膨大な個社データの分析を通じて考察した研究が発表されました。

▼各研究報告の後には、参加者からさまざまなコメントや質問が寄せられ、白熱した議論が繰り広げられました。

▼当日の議事要旨および基調講演は、金融研究所ホームページに掲載しておりますのでぜひご覧ください。



第二一回情報セキュリティ・シンポジウムを開催

▼金融研究所情報技術研究センター（CITECS）では、二〇一九年十二月九日に、「暗号資産のセキュリティ」をテーマとする第二一回情報セキュリティ・シンポジウムを開催しま

した。参加者は、情報セキュリティ技術に関わる金融機関関係者や大学などの研究者、暗号資産（注）に関するサービスマを提携する企業の実務者など、約九〇名に上りました。講演では、暗号資産を構成する技術やそれらのセキュリティに関する最新の研究動向が紹介されました。パネル・ディスカッションでは、暗号資産のセキュリティに関する学術的な研究成果を実務へ活用していく上での課題や対応のあり方について、四名の外部の

有識者による活発な議論が交わされました。

▼近年、金融サービスにおいては、暗号技術や情報セキュリティ技術が果たす役割が一段と大きくなっています。情報技術研究センターでは、金融業界が情報化社会において直面する新たな課題に適切に対処していくように、今後さまざまな取り組みを行ってまいります。

（注）暗号資産とは、インターネット上で電子的にやりとりできる財産的価値であり、法定通貨（建て）ではないものです。代表的な暗号資産として、ビットコインやイーサリアムがあります。

「第一五回 日銀グランプリ」の決勝大会を開催

▼大学生を主な対象とする金融・経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第一五回 日銀グランプリ」は、今回は全国各地の四二校から一〇四編の論文が寄せられ、一次審査を通過した五チームにより



会場の様子（撮影：野瀬勝一）

編集後記

■今号が発刊される3月下旬といえば、季節は春。学校は春休みに入り、人も動植物も活動が盛んになり始めます。春という言葉から、皆さまは何を連想されますか。私がまず思い浮かぶのは、正月を新春というように、「物事の始まり」です。子供のころにスペイン語、大学生の時にフランス語を少々勉強しましたが、春はそれぞれプリマベラ (Primavera)、プランタン (Printemps)。ともに、接頭語のプリ (Pri) は第一を意味します。次に、厳しく辛い冬の次に来ることから、「抑圧からの解放、自由の到来」の代名詞でもあります。「ようやくわが家にも春がきた」と喜ばれますし、世界的には「ブラハの春」などがあります。他にも色々ありますが、今回の対談、インタビュー、そして地域の底力は、それぞれ創造力、大きな力に立ち向かう人間力、自然災害からの復興力と、まさに春を象徴する内容だと思えます。まもなく新年度が始まりますが、本誌の記事が少しでも皆さまのやる気や勇気、そして力添えとなれば幸いです。(中川)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2020年春号
編集・発行人 中川 忍
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎ 03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
禁無断転載



決勝進出5チームと審査員の皆さん (撮影：野瀬勝一)

二〇一九年十一月二十三日に決勝大会が開催されました。

▼決勝大会では、橋本圭一郎氏（経済同友会副代表幹事・専務理事）、桜井恵理子氏（ダウ・東レ株式会社代表取締役会長・CEO）の他、日本銀行の若田部昌澄副総裁（審査員長）、わかたべまさあき原田泰・布野幸利両政策委員会審議委員の五名の審査員を前に、各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

▼最優秀賞には、東京経済大学経済学部チームの「大学の大学生による小学生のための学童保育」が選ばれました。この他、優秀賞に学習院大学経済学部チーム・東京理科大学経営学部チーム、敢闘賞に京都大学経済学部チーム・日本大学経済学部チームが選出されました。

▼日本銀行は、三月一日から新卒採用（総合職、特定職、一般職）のエントリーシートの募集を開始しました。詳細は、日本銀行ホームページをご覧ください。



新卒採用エントリーシートの募集開始



from Washington, D.C.



世界銀行ビルに掲示された大型垂れ幕

グローバルな街ワシントンD.C.

米国の首都ワシントンD.C. についてのイメージといえば、ホワイトハウスと議会に代表される「政治の町」という方が多いかと思いますが、国際通貨基金（IMF）と世界銀行グループ（注）の本部を有する国際都市としての一面も持っています。昨年、体制発足75周年を迎えた両機関の本部ビルは、ワシントンD.C. 北西部の19番街の両脇に建っています。

普段は物静かで落ち着いた雰囲気のある両ビルの近辺が、人でごった返し、にぎやかになる時期が、例年、4月と10月にあります。国際通貨基金および世界銀行のオーナー（出資国）である加盟各国を代表して、財務大臣や中央銀行総裁等が集ういわば「株主総会」が開催される時です。ちなみに、4月の会合は春季会合、10月の会合が年次総会と呼ばれています。

加盟189カ国の財務大臣と中央銀行総裁、その随行者、会合取材する各国メディア、会合とリンクして開催されるもろもろのイベントに参加する金融機関関係者等を合わせて1万人を超える人々がやって来

る4月と10月は、19番街の一角が文字通り人種のるつぼ状態となります。

こうした一大イベントの開催に向けて建物のデコレーションや会場設営等が、ごく短期間で行われることも大きな特徴です。金曜日までは何もなかったビルの壁に、月曜日に出勤してみると大型垂れ幕が掲示されているといった具合です。もちろん、その背後には、円滑な会合開催に向けた何カ月にも及ぶ入念な事前準備があるわけです。

毎年4月と10月という季節の変わり目にあたって、大型垂れ幕や各国からの多数かつ多様な会合参加者でにぎわう19番街を目にするたびに、ワシントンD.C. のグローバルな側面と米国が元来持っている包容力を感じます。

（国際通貨基金本部、ワシントンD.C.）

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。

（注）世界銀行グループ／貧困削減や開発支援を目的とした国際復興開発銀行や国際開発協会など5機関から構成される。1944年に設立が決定、翌年に正式発足。



19番街交差点（左のビルが世界銀行、右の手前の二つのビルが国際通貨基金）



にちぎん